

別記様式第8号(別記1の第6の1、別記2の第5、別記3の第5、別記4の第6、別記5の第6、別記8の第6の1の(1)関係)

鳥獣被害防止総合支援事業、鳥獣被害防止都道府県活動支援事業(都道府県広域捕獲活動支援事業)鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業、シカ特別対策等事業、鳥獣被害防止対策促進支援事業(広域柵等鳥獣被害防止施設整備事業)の評価報告(令和7年度報告)

北海道

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (協議会名)	対象 地域	実施 年度	対象 鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用 開始	利用率・ 稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績										事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価	
										対象鳥獣	被害金額(千円)					被害面積(ha)							
											現状値	目標値	実績値	割合	達成率	現状値	目標値	実績値	割合				達成率
※別紙「複数の事業実施主体がある場合」を確認してください				各年度の全ての事業の実績報告の内容を抜粋して記載してください		整備事業のみ記載してください			獣種ごとに事業実施前後の定量的な比較ができるよう時間軸を明確に記載し、その効果を詳細に記載してください。 ※整備事業を行った場合は、捕獲効率の向上にどのように寄与したかも必ず記載してください。	※計画期間R4～R6の被害防止計画の現状値を記載してください ※被害防止計画に記載されたすべての鳥獣を記載してください ※単位(千円、ha)を変えてはいけません。 (被害防止計画の単位が異なる場合は千円、haに換算して記入してください) ※被害防止計画ごとに合計欄を設けてください ※実績(R6)の数字は「鳥獣被害防止特措法に基づく被害防止計画の実施状況の報告」と一致しているか確認してください											事業効果を踏まえて達成状況がそうなった要因などの考察や今後の方針などを記載してください ※整備事業で施設整備を行った場合は、経営状況も記載してください	第三者の意見 (第三者の所属・役職・氏名)の4点を記載してください	振興局で入力
寿都町鳥獣被害防止対策協議会	寿都町	R4	ヒグマ、エゾシカ、キツネ、カラス類、アライグマ、トド、オットセイアザラシ類	1推進事業 (1)有害捕獲 ・捕獲用機材の購入 ・担い手育成の講習会に係る費用(捕獲隊員日当、燃料費、交通費、講師謝金) ・一斉捕獲対応 ・事務費	・アライグマ捕獲用箱罠:16台(6月) ・アライグマ捕獲用箱罠:12台(2月) ・有害鳥獣処分箱(アルミ製):1台(6月) ・炭酸ガス容器:1台(6月) ・炭酸ガス調整器:1台(6月) ・炭酸ガス充填:1台(6月) ・担い手育成のための講習:1回(2月) ・一斉捕獲対応:3回(2月) ・消耗品費等(3月)					ヒグマ	300	210	0	0.0%	333.3%	0.5	0.35	0	0.0%	333.3%	陸上における鳥獣被害については猟友会で実施される冬季の一斉捕獲や、被害地区の住民による防除により被害が減少傾向にあることから一定の効果が出てきていると考察する。 ヒグマについては被害が減少傾向にあるものの、引き続き猟友会会員の活動を支援し、円滑な駆除・防除ができるように努める。 海獣については、各年ごとの来遊数により被害が大幅に増減することから、目標達成率は70%を下回っているため、目標年度を1年間延長し取り組みを継続する。	猟友会寿都支部寿都分会 ・書記・高橋 玲 事業全般にわたり、実状に沿った取組であり、特に支障はない。昨年トドによる浅海での被害が多く見受けられ、漁協と協議しながら対策を講じる必要がある。 今後もヒグマ、エゾシカを中心に有害駆除を継続しながら、ハンターの技術支援や協議会組織体制及び連携の強化により、地域住民の安全・安心を図っていきたい。	
		R5	ヒグマ、エゾシカ、キツネ、カラス類、アライグマ、トド、オットセイアザラシ類	1推進事業 (1)有害捕獲 ・捕獲用機材の購入 ・担い手育成の講習会に係る費用(捕獲隊員日当、燃料費、交通費、講師謝金) ・一斉捕獲対応 ・事務費	・アライグマ捕獲用箱罠:10台(6月) ・元祖熊撃退スプレー:6台(2月) ・センサーカメラ:5台:(7月) ・担い手育成のための講習:1回(2月) ・一斉捕獲対応:3回(2月) ・消耗品費等(8月)					エゾシカ	300	210	280	9.2%	22.2%	0.30	0.20	0.24	82.8%	60.0%			
		R6	ヒグマ、エゾシカ、キツネ、カラス類、アライグマ、トド、オットセイアザラシ類	1推進事業 (1)有害捕獲 ・捕獲用機材の購入 ・担い手育成の講習会に係る費用(捕獲隊員日当、燃料費、交通費、講師謝金) ・一斉捕獲対応 ・事務費	・ヒグマ大型箱罠購入:1台(3月) ・消耗品費等(3月)				R4年度のエゾシカは21頭捕獲し、アライグマについては箱罠を活用して142頭捕獲した。R3年度と比較してエゾシカは4頭減少、アライグマは22頭増加した。ヒグマについては目撃情報があったため、箱罠を設置し1頭捕獲。 R5年度のエゾシカは44頭捕獲し、アライグマは84頭捕獲。ヒグマはR4年度同様、目撃情報があったため、箱罠を設置し1頭捕獲。 R6年度のエゾシカは37頭捕獲し、アライグマは60頭捕獲した。R4年度、R5年度と比較してエゾシカ、アライグマの捕獲件数は減少傾向にある。ヒグマについては目撃情報はなく捕獲実績もなかった。 また、トド、オットセイアザラシ類については漁業被害を最小限に防ぐため強化網を導入し、共存を目指した対策を行っていることから駆除を行わなかった。	キツネ	—	0	0	0.0%	#VALUE!	—	0.00	0	0.0%	#VALUE!			
									カラス類	—	0	0	0.0%	#VALUE!	—	0.00	0	0.0%	#VALUE!				
									アライグマ	220	198	50	1.7%	772.7%	1.54	1.386	0.05	17.2%	967.5%				
									トド(直接被害金額)	720	216	690	22.8%	6.0%				0.0%	#DIV/0!				
									トド(間接被害金額)	2,145	644	2,010	66.3%	9.0%				0.0%	#DIV/0!				
									オットセイアザラシ類(間接被害金額)	0	0	0	0.0%	#DIV/0!				0.0%	#DIV/0!				
									オットセイアザラシ類(直接被害金額)	330	99	0	0	142.9%				0.0%	#DIV/0!				
									合計	4,015	1,577	3,030	1.0	40.4%	2.34	1.936	0.29	1.0	507.4%				

注1:被害金額及び被害面積の目標欄については対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせて他の欄も記載する。
2:都道府県が事業実施主体となる鳥獣被害防止都道府県活動支援事業を実施した場合、その事業内容等も記載すること。
3:事業効果は記載例を参考とし、獣種等ごとに事業実施前と事業実施後の定量的な比較ができるよう時間軸を明確に記載の上、その効果を詳細に記載すること。整備事業を行った場合、捕獲効率の向上にどのように寄与したかも必ず記載すること。
4:「事業実施主体の評価」の欄には、その効果に対する考察や経営状況も詳細に記載すること。
5:鳥獣被害防止施設の整備を行った場合、侵入防止柵設置後のほ場ごとの鳥獣被害の状況、侵入防止柵の設置及び維持管理の状況について、地区名、侵入防止柵の種類・設置距離、事業費、国費、被害金額、被害面積、被害量、被害が生じた場合の要因と対応策、設置に係る指導内容、維持管理方法、維持管理状況、都道府県における点検・指導状況等を様式に具体的に記載し、添付すること。→様式8参考様式シートへ入力